

箕面市新市立病院整備 基本設計概要版
令和8年（2026年）8月

■新病院の基本方針

<新病院がめざす姿>

箕面市民の命と健康の
砦となる公立病院

広域性・公益性を持ち
地域医療の核となる病院

患者と医療従事者に
とって魅力ある病院

<設計コンセプト>

地域、患者、職員の「未来」を支える病院づくり

地域の安心を支え、将来の変化に対応できる病院づくり

災害時においても医療機能を維持できる高い防災性能を備えるとともに、将来の医療需要や医療技術の変化に柔軟に対応できる可変性・更新性の高い施設計画とすることで、地域医療の核となる病院として、地域の「未来」を支える。

患者やそのご家族に安心・安全を提供する病院づくり

わかりやすいフロア配置、感染対応やプライバシーに配慮した空間構成及び自然光や緑を取り込んだ快適な療養環境を整備することで、患者一人一人に寄り添う医療を提供する病院として、患者の「未来」を支える。

職員が働きやすく、魅力を感じる病院づくり

診療部門間の連携を高める効率的なゾーニング、職員動線の最適化及び十分な交流空間を整備することで、長期にわたり快適に働ける環境を確保し、職員が技術や経験を積み重ねながら、やりがいを持って働き続けられる病院として、職員の「未来」を支える。

■計画概要

<敷地概要>

- ・所在地：箕面市船場東1丁目地内
(箕面船場阪大前駅3番出口から徒歩約4分)
- ・敷地面積：約14,680㎡
- ・用途地域：商業地域
- ・防火地域：防火地域
- ・法定容積率：600%
- ・法定建蔽率：80%

<施設概要>

- ・病床数：390床（高度急性期・急性期）
- ・診療科目：30診療科

内科（総合）、消化器内科、循環器内科、
血液内科、糖尿病・内分泌代謝内科、脳神経内科、
呼吸器・免疫内科、腎臓内科、緩和ケア内科、
感染症内科、精神科、小児科、外科、呼吸器外科、
消化器外科、乳腺・甲状腺外科、整形外科、形成外科、
脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、
耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、
放射線治療科、病理診断科、救急科（ER）、麻酔科

※下線部は新設

<建物概要>

【病院棟】

- ・建築面積：約 6,350㎡
- ・延床面積：約38,900㎡
- ・階数：9階
- ・耐火種別：耐火建築物
- ・主体構造：鉄骨造、免震構造

【立体駐車場棟】

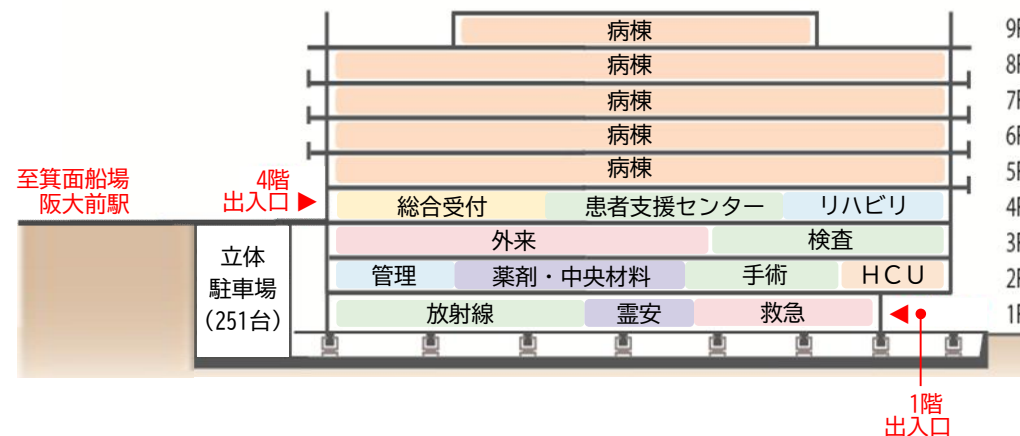
- ・建築面積：約2,010㎡
- ・延床面積：約9,970㎡
- ・階数：5階（地下1階含む）
- ・耐火種別：耐火建築物
- ・主体構造：鉄骨鉄筋コンクリート造

■新病院のイメージ

<外観（南側より）>



■断面構成



■配置計画図

鉄道の高架下をくぐり、敷地内へ

○車両動線を機能別に分離し、スムーズなアプローチを実現

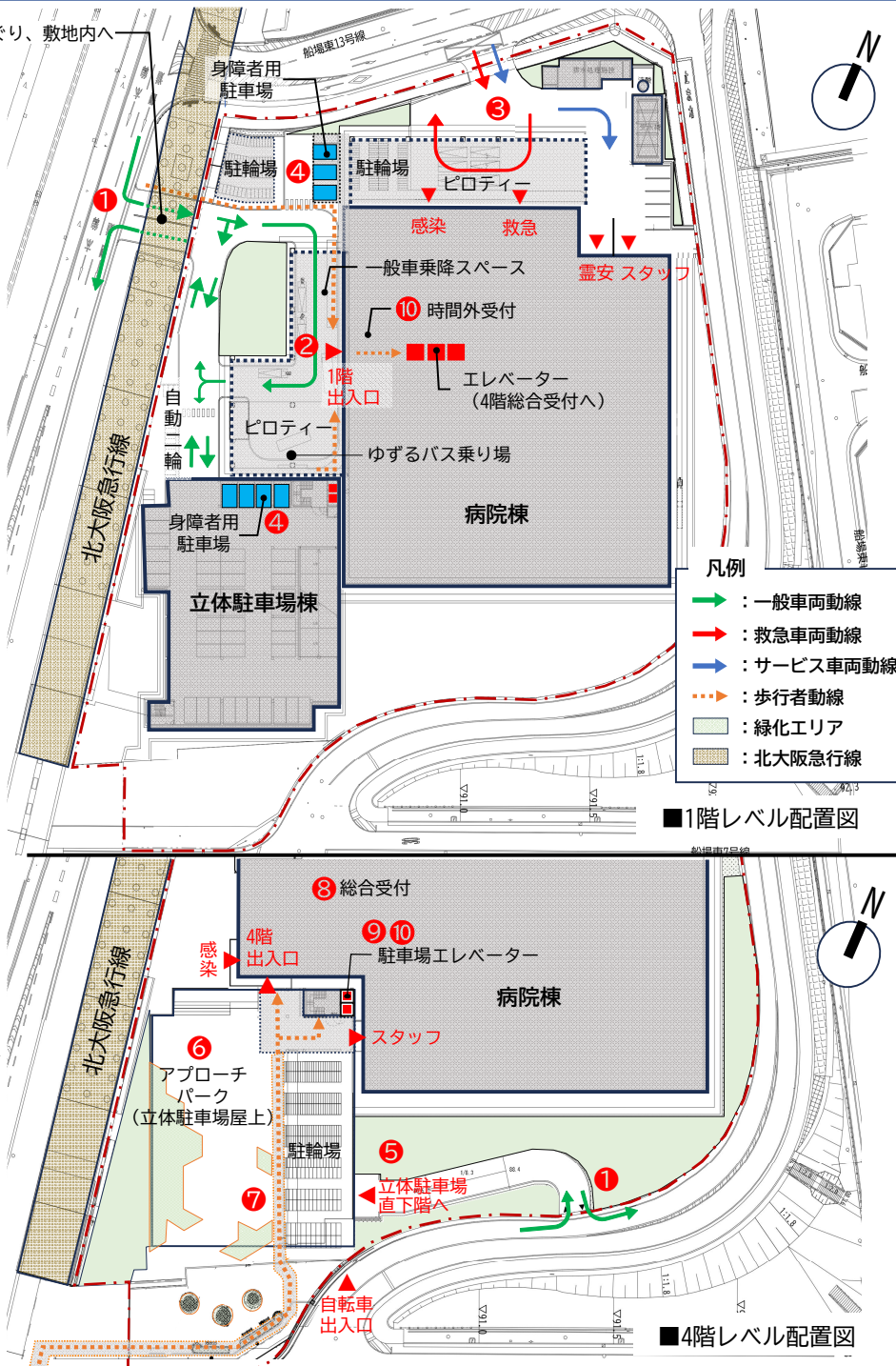
- ①一般車両は敷地西側と南側の2か所からの出入りとした計画
- ②病院棟西側には、一般車乗降スペースを設け、ゆずるバス、タクシー、福祉車両の乗入れに配慮したロータリーを計画（ピロティ内から雨に濡れずに来院可能）
- ③救急車両は一般車両動線と分離し、敷地北側に出入口を計画
- ④1階出入口付近に身障者用駐車場を7台分整備し、建物内への安全な経路を確保
- ⑤敷地南側から直接立体駐車場へ向かうルートを計画

○まちづくりに配慮した緑豊かなアプローチパークの整備

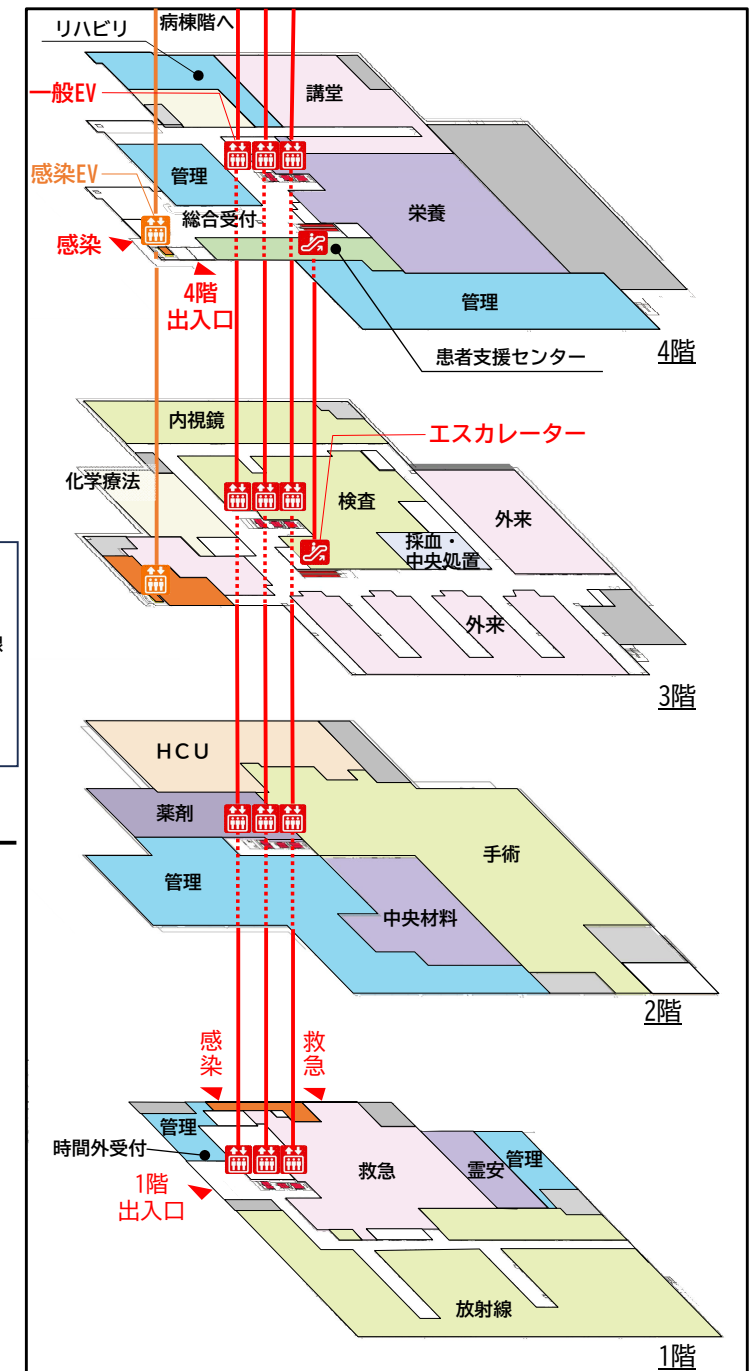
- ⑥立体駐車場の屋上に、病院棟4階出入口への快適な歩行者空間を創出するアプローチパークを整備
- ⑦アプローチパークは街づくりに配慮した緑豊かな空間にするとともに、駅から病院棟出入口までつづく屋根付き歩廊を設置

○敷地高低差を利用した安全性の高い歩行者と自動車の動線分離

- ⑧駅からの歩行者動線に配慮し、病院棟4階に総合受付を配置
- ⑨車で来院者は立体駐車場を利用し、付属のエレベーター及び階段を通じて病院棟4階出入口にアプローチ
- ⑩立体駐車場エレベーターは24時間利用可能なため、夜間でも駅から時間外受付がある1階出入口へアクセスが可能



■フロア構成図(1階～4階のみ)



1階平面図

ー救急・放射線のフロアー

○1階出入口からの来院者にわかりやすい動線計画

- ①1階出入口の正面にエレベーターを配置し、3階外来、4階総合受付へのスムーズな動線を確保
- ②時間外受付を1階出入口付近に設置し、救急ウォークイン患者のスムーズな動線に配慮

○合理的な救急動線

- ③機動力が発揮できるゆとりのある救急ホールを設置
- ④救急専用エレベーターを設置し、手術・病棟へのスムーズな動線を確保
- ⑤救急部門と放射線部門（一般撮影室、CT室、透視室等）を近接した配置により、スムーズな入室が可能
- ⑥ゆとりある時間外待合を計画し、緊急時にも対応可能

○一般動線と分離したスタッフ動線

- ⑦スタッフ動線は出入口から専用エレベーターまで一般動線と分離
- ⑧霊安出入口（ご遺体搬送口）はスタッフ出入口と分離し、目隠し壁を設けることで目立たないように配慮

○将来対応に配慮した放射線部門

- ⑨医療技術の変化に応じて、将来の機器増設に配慮した計画

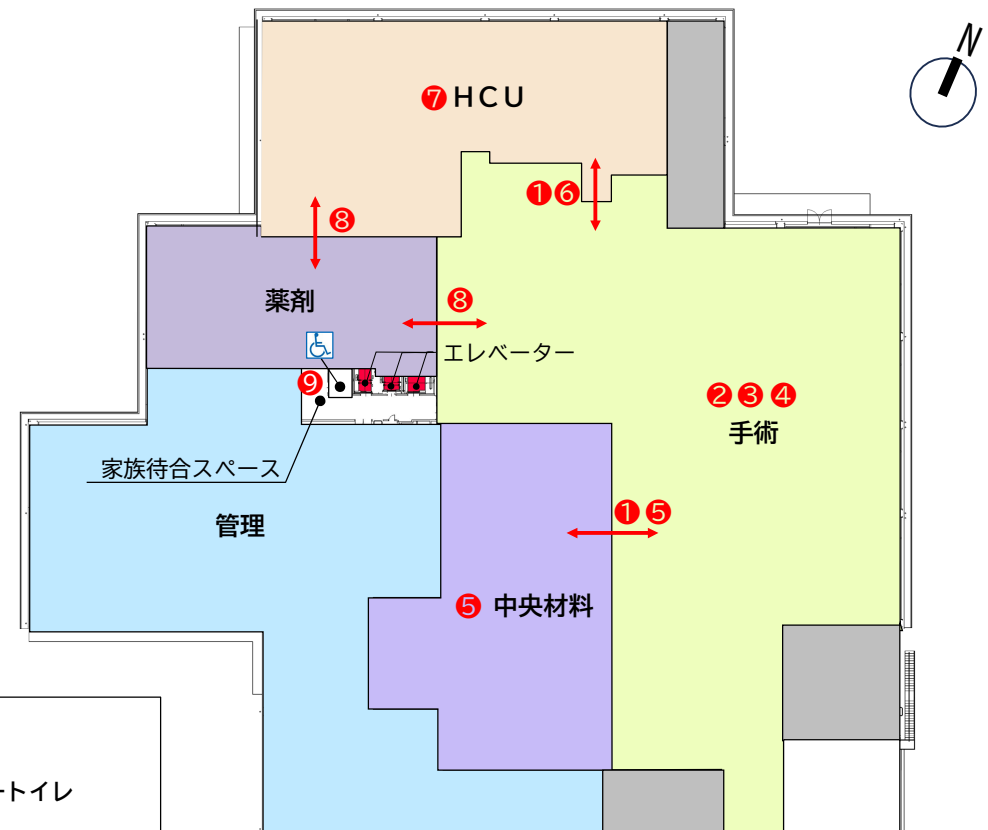


2階平面図

ー手術・HCUのフロアー

○迅速性に配慮した手術部門

- ①手術部門、HCU（高度治療室）、中央材料部門を隣接配置し、術前術後のスムーズな動線を確保
- ②手術部門は面積効率に配慮した手術ホール型を採用
- ③手術室は8室と将来拡張スペース1室の計9室の構成とし、ロボット手術、ハイブリッド手術等高度医療のほか、日帰り手術にも対応
- ④救急専用エレベーターから陰陽圧切替可能な手術室への直結動線を確保し、感染患者に配慮
- ⑤中央材料部門は清潔エリアと不潔エリアを明確に区分けし、手術部門との動線にも配慮
- ⑥手術部門からHCUへ直接アクセス可能な動線を確保
- ⑦HCUは20床の計画とし、そのうち8床は観察室として設け、救急の経過観察用ベッドとしても利用可能
- ⑧薬剤部門は手術部門、HCU及び直下階にある救急部門に隣接させ、スムーズな動線を確保
- ⑨手術部門の手前には外来手術患者のご家族が利用する家族待合スペースを計画



■3階平面図

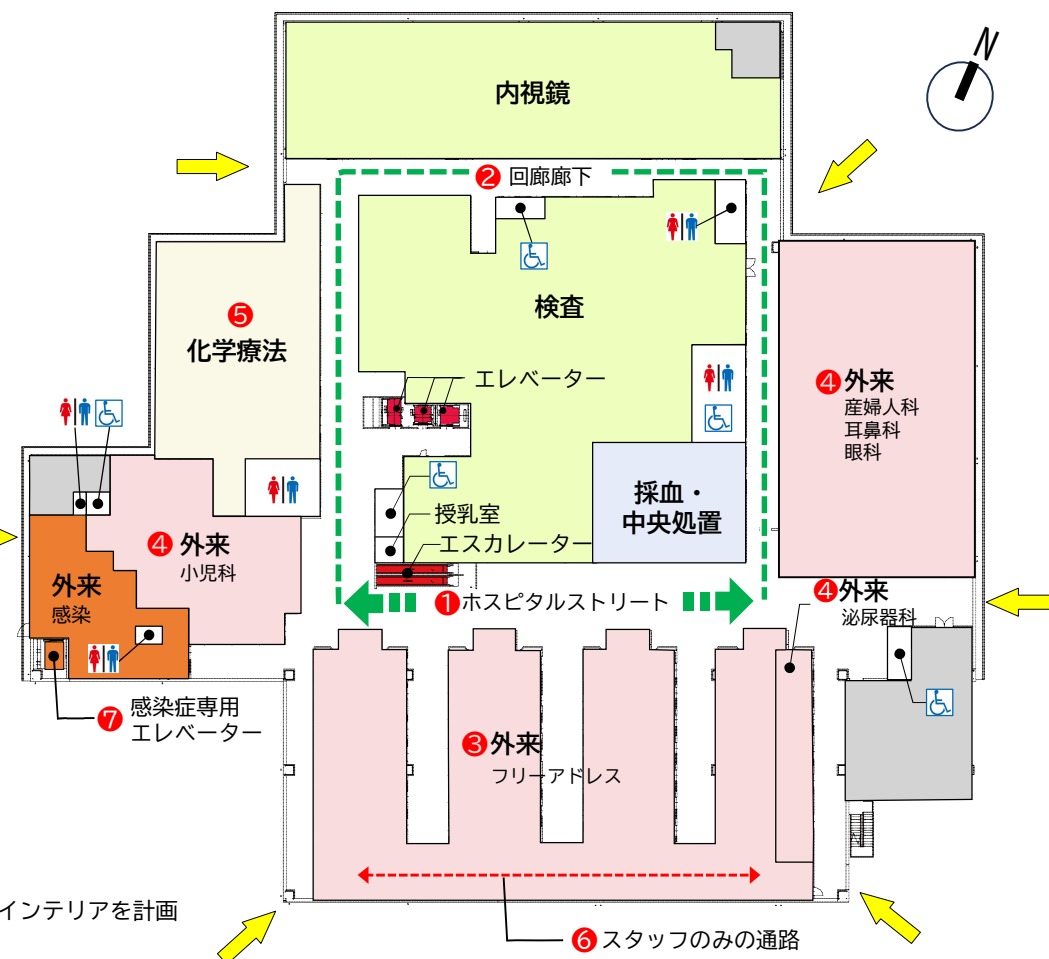
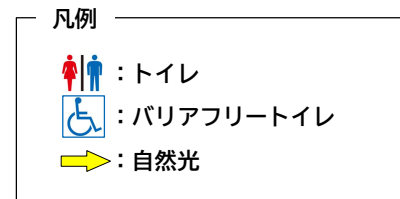
ー外来・検査のフロアー

○ホスピタルストリートと回遊廊下で構成されたわかりやすい外来

- ① 外来フロアの主動線となるホスピタルストリートに面して外来受付を配置することで視認性に配慮し、診察までゆっくりと過ごせる待合環境を整備
- ② 回遊廊下とすることで1本道のわかりやすい動線を確保し、端部には自然光の入る窓を設置することで外来フロアの明るさに配慮
- ③ 外来（内科や整形外科等）患者数の多い診察科はフリーアドレス診察室としてフレキシブルな運用が可能
- ④ プライバシーに配慮した産婦人科や感染症等に配慮が必要な小児科等は、独立した待合を確保

○一般動線と分離した効率的なスタッフ動線

- ⑤ 化学療法室はベッドとリクライニングチェアを設け、コの字型に配置し、スタッフからの視認性に配慮
- ⑥ 外来部門では患者待合とは別にスタッフのみの通路を設置し、医師と看護師のスムーズな連携や移動が可能
- ⑦ 4階感染症専用出入口から感染症専用エレベーターによって、直接感染待合への動線を確保し、他の患者との動線分離による感染リスクを回避



○わかりやすく、落ち着いた外来待合

- ⑧ 各ブロックの受付は、受付背面の壁を異なるカラーで配色し、わかりやすい外来空間を構築
- ⑨ 受付のデザインに合わせた天井照明配置とすることによって、背面のカラーと合わせて、温かみのあるインテリアを計画

■4階平面図

ー総合受付・患者支援センターのフロアー

○わかりやすい一般動線と快適な環境づくり

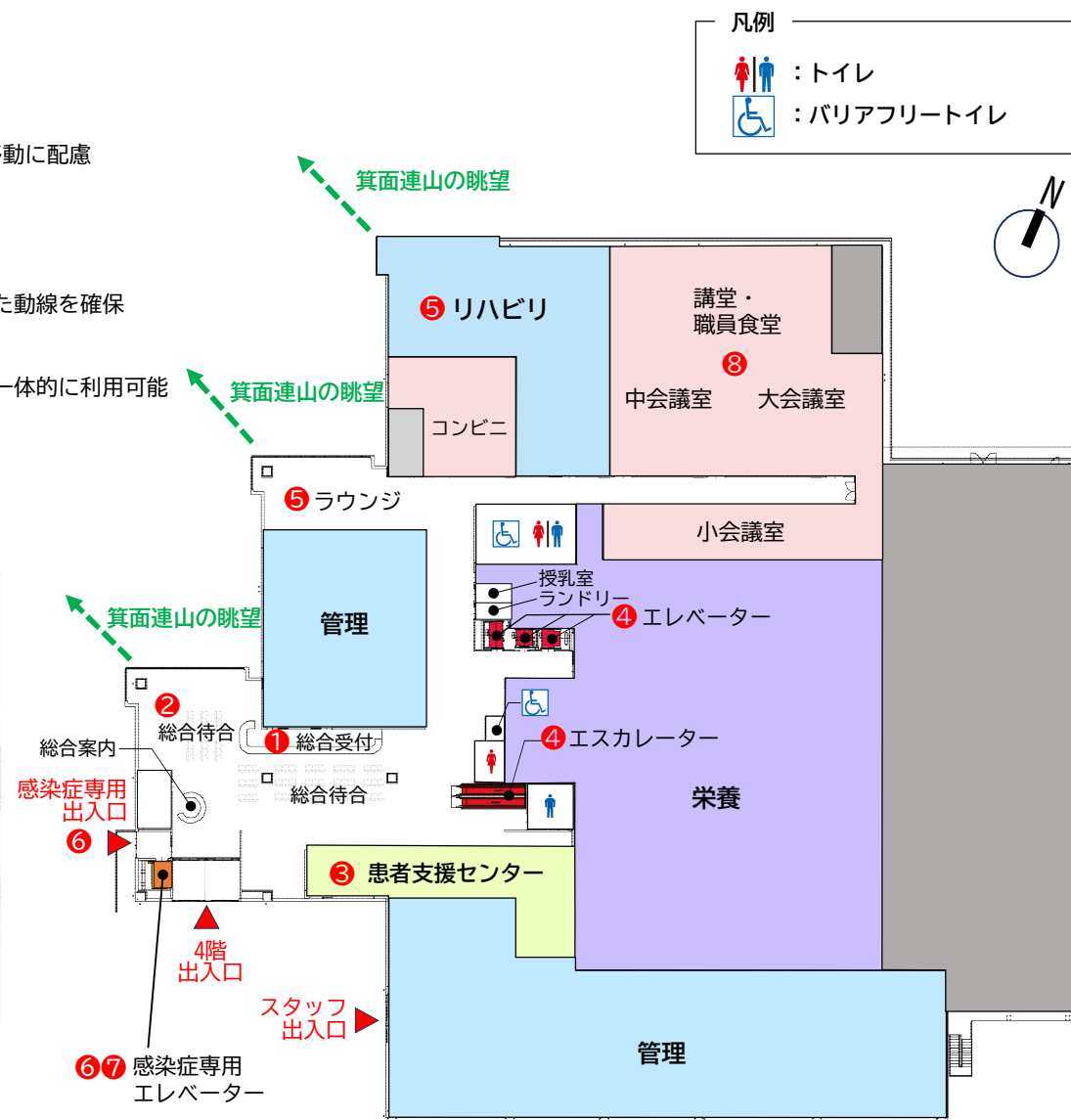
- ①4階出入口の正面に総合受付を配置し、わかりやすいスムーズな動線を確保
- ②総合受付前には箕面連山を望む総合待合を計画
- ③患者支援センターは気軽に相談できるカウンターやプライバシーに配慮した個室を計画
- ④エスカレーター、エレベーターを総合受付に隣接して配置することで、他階へのスムーズな移動に配慮
- ⑤箕面連山を望む建物北側にはラウンジ（イートインコーナー）やリハビリ部門を配置

○分離された感染患者動線

- ⑥外部に感染症専用出入口を設置し、3階の感染外来に直接移動可能なエレベーターを設置
- ⑦感染症専用エレベーターは5階病棟にも接続しており、入院が必要な場合も一般動線と分離した動線を確保

○可変性のある空間づくり

- ⑧会議室は移動間仕切壁によって利用規模に応じて区画が可能。最大約300人規模の講堂として一体的に利用可能



○落ち着いた空間づくり

- ⑨来院者を迎え入れる4階総合受付では、敷地の特徴である箕面連山への眺望に配慮した抜けのある空間を構築
- ⑩天井面に円環状に配置した照明によって、やわらかく落ち着いた空間を演出
- ⑪総合案内や総合受付の背面の壁は温かみのある木調とし、白を基調としたサインを設置することで、視認性の高い空間を構築

■5～8階平面図

ー病棟フロア(1)ー

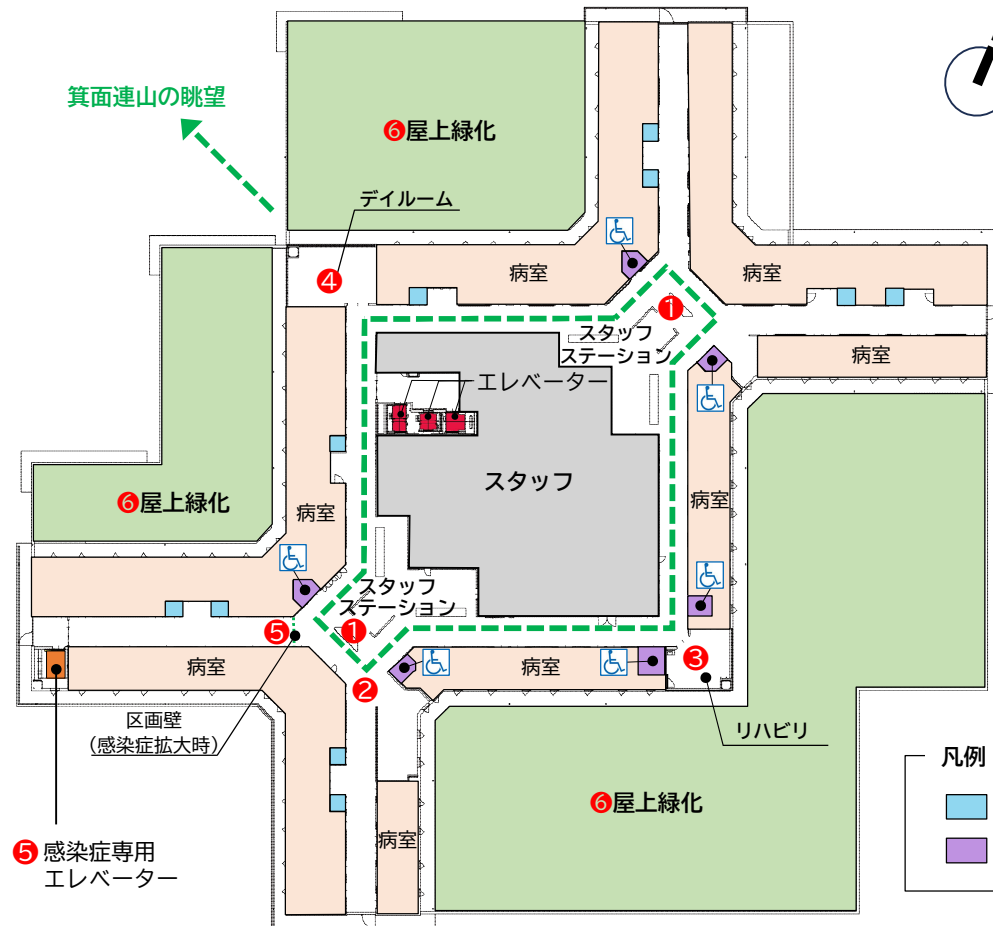
○病棟階共通内容

- ① 十字路口にスタッフステーションを配置することで全病室を見通せる計画
- ② 病棟を周回する回遊廊下はリハビリ歩行訓練にも有効
- ③ 急性期リハビリを実施するための空間を各フロアに設置
- ④ 建物北西に箕面連山を望むデイルームを設け、入院患者がリフレッシュできる共用スペースを計画
 - ・病室は新興感染症等の感染予防対策の観点や、プライバシーの確保、セキュリティの向上等を目的に、全室個室を計画（うち30%を有料個室）
 - ・無料個室には手洗い、床頭台を設置し、有料個室には手洗い、床頭台に加え、シャワー、トイレを整備
 - ・無料個室の周辺には分散してトイレを配置

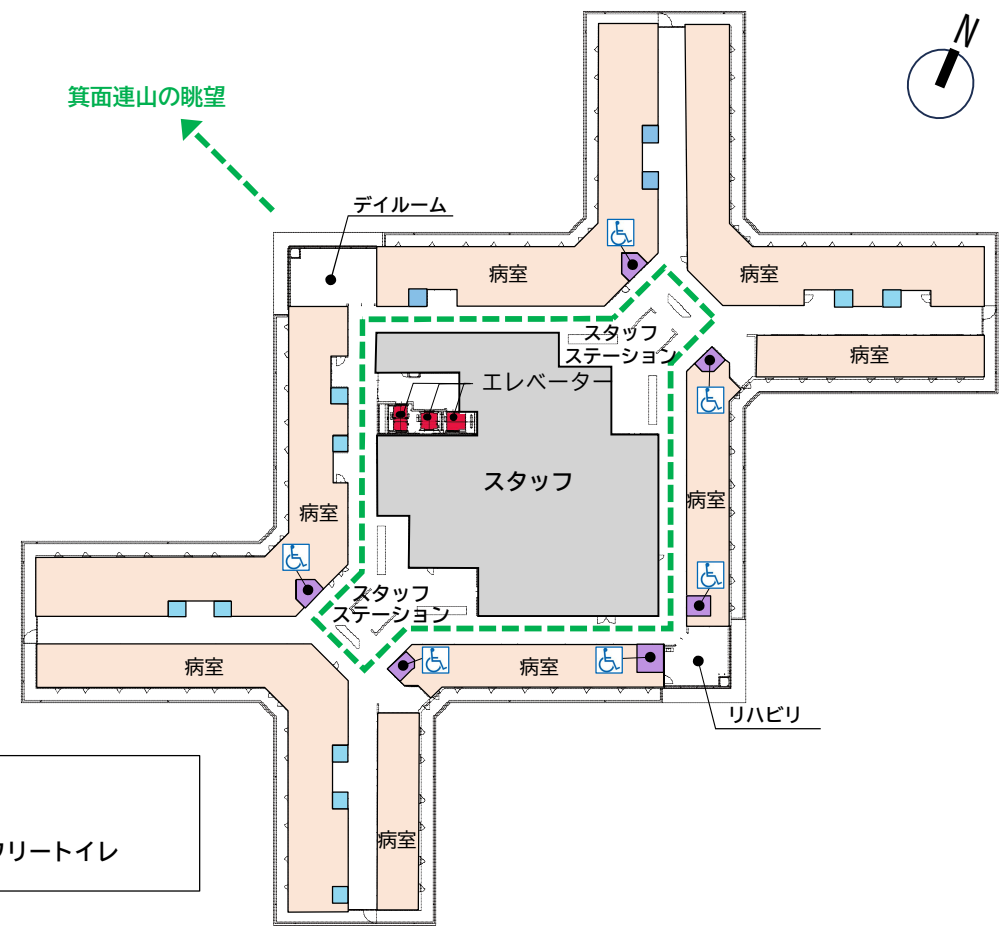
○各階フロア計画

- ⑤ 5階には感染病床に直結する感染症専用エレベーターにより一般患者との動線を分離
また、感染症の拡大状況に応じて、廊下に区画壁を配置し、感染患者の増加にも対応可能
- ⑥ 病室から眺められるみどり溢れる屋上緑化を計画
 - ・6階には無菌病室4床を計画（無菌病室：クリーンルーム仕様の病室）
 - ・7階にはSCU病室3床を計画（SCU病室：脳卒中ケアユニット）

5階平面図



6～8階平面図



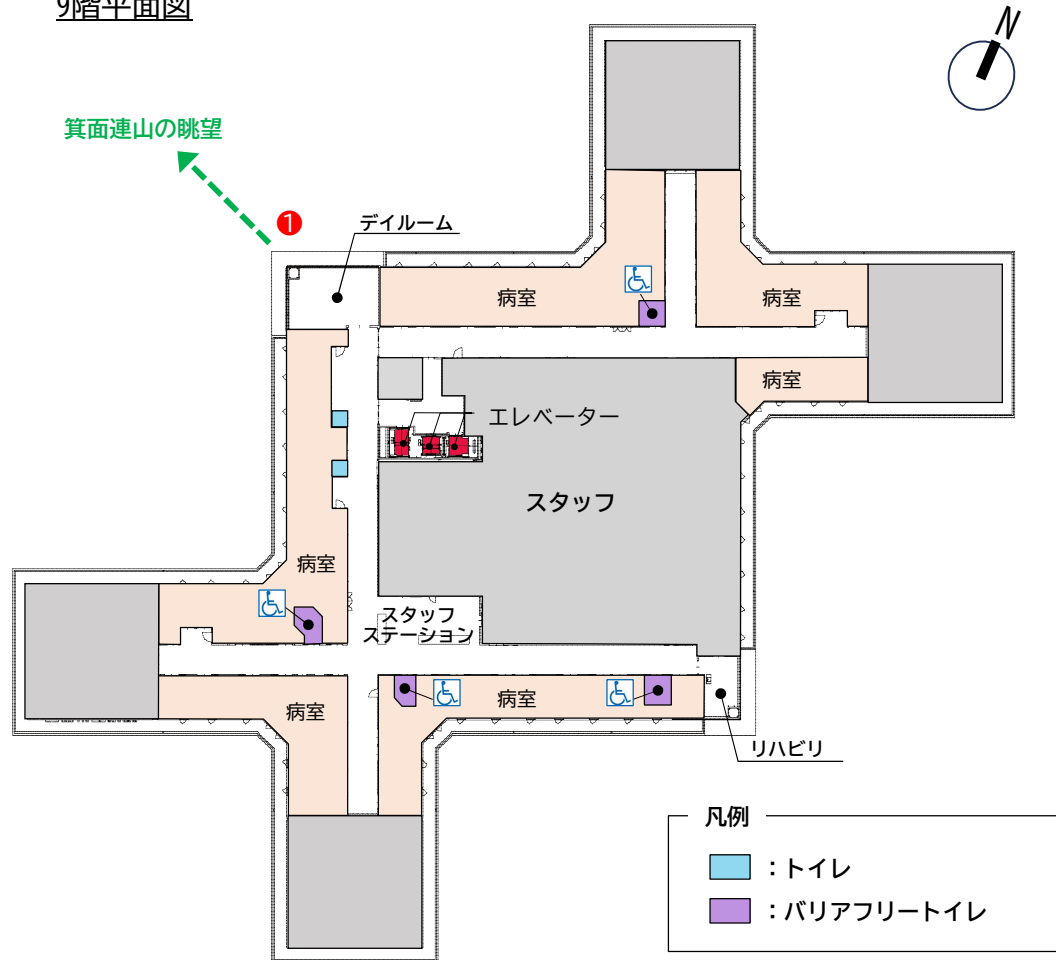
9階平面図

一病棟フロア (2) -

○産科・女性病棟

- ①最上階の見晴らしの良い環境により、出産を希望するかたに選ばれる産科病棟
- ・ワンフロアを女性専用の病棟とし、プライバシーに配慮した安心して療養できる環境を整備
- ・産科病棟には、15床の病室のほか、LD室3室及び新生児室を配置
(LD室：陣痛・分娩を1つの室で行うことができるようにした室)

9階平面図



スタッフステーションのイメージ



無料個室のイメージ

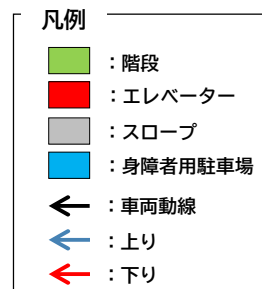
■計画概要

○安全性、機能性を考慮した立体駐車場

- ①車の動線交差が少なく、利用者にとってわかりやすい安全性を高めた平面計画
- ②身障者用駐車場の後方には車いす利用者が乗り降りできる十分なスペースを確保
- ③出入口を1階と4階の2か所に設け、各方面からの来院者がスムーズにアクセスできるように計画
また、各出入口に満空表示灯を設置し、スムーズな駐車を誘導

○駐車台数：合計251台

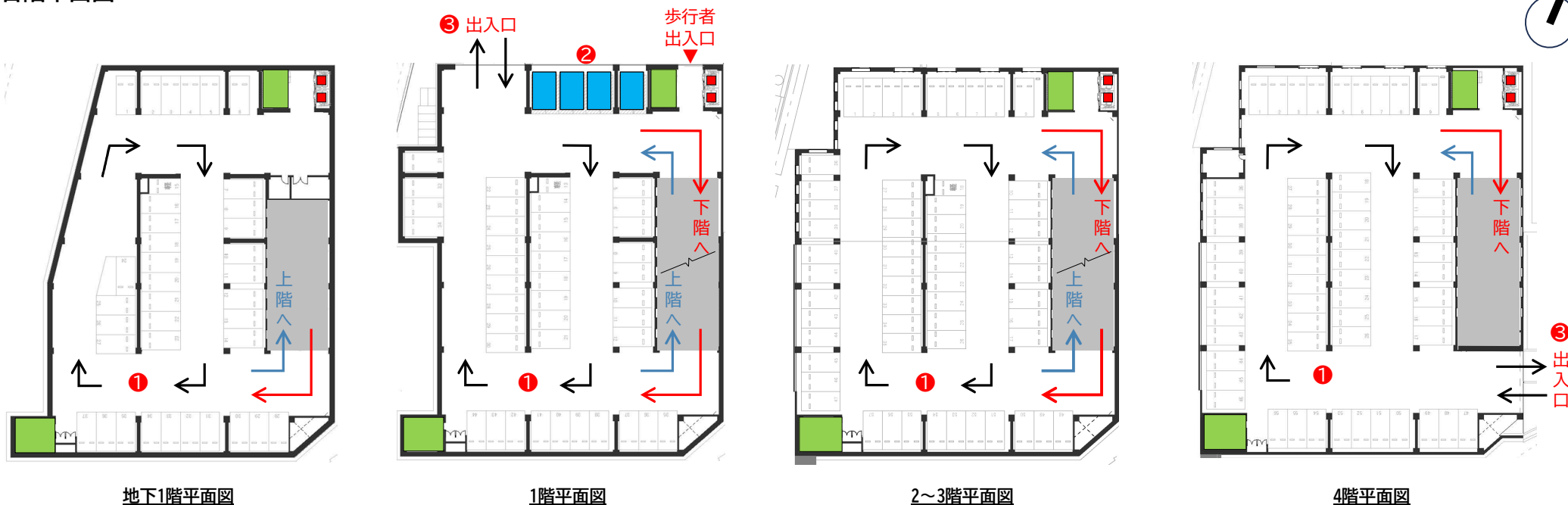
4階	：56台
3階	：57台
2階	：57台
1階	：44台（身障者用駐車場4台含む）
地下1階	：37台



■断面構成



■各階平面図



○外観イメージ (南側より)



○外観イメージ（北側より、昼間）



○外観イメージ（北側より、夜間）



○アプローチパークのイメージ



■概算事業費

		令和8年8月時点
項 目		金額(税込)
事 業 費	建設費（立体駐車場含む）	約517億円
	医療機器等整備費	約71億円
	設計・工事監理費など	約18億円
合 計		約606億円

※用地取得費及び移転費を除きます。

※今後の物価変動は含んでおらず、建設市況等により変動する可能性があります。

■スケジュール

今後、実施設計・建設工事を進め、令和13年度中の開院をめざします。

※現時点で見込まれるスケジュールであり、変更となる場合があります。